

2024/06/30

説教題：神の恩寵の栄光のために-天の御国に座して

OICの皆さんお早うございます。そして父の家によろこそ。

今日は、使徒パウロによって書かれたエペソ書を続けます。エペソの教会に宛てたこの手紙は、クリスチャンたちに、あたかも自分たちがすでに天の御国にいるかのように、神の視点に立って生きるようにと伝えてあります！。パウロは、神はクリスチャンが地上での聖なる生活を成功させるために必要以上のものを与えておられ、それは神の恩寵の栄光のために天でも続いている、と繰り返し大胆に宣言しています。

それでは、エペソ書を読みましょう：「15 こういうわけで、私は主イエスに対するあなたがたの信仰と、すべての聖徒に対する愛とを聞いて、16 あなたがたのために絶えず感謝をささげ、あなたがたのことを覚えて祈っています。17 どうか、私たちの主イエス・キリストの神、すなわち栄光の父が、神を知るための知恵と啓示の御霊を、あなたがたに与えてくださいますように。」エペソの教会は、(エペソ 1. 15)にあるように、主イエスへの信仰と.....すべての神の民への愛という敬虔な評判を確立していました。1世紀の社会では、ニュースは対面でのネットワークに頼っていました。また、人々は聞いたことを正確に記憶するように訓練されていました。ユダヤ民族は特にこの性質を持っており、何千年もの間、聖典を貴重な書物の巻物として保管するだけでなく、(申命記 11. 18)で命じられているように、次のような責任も負っていました：「18 あなたがたは、私のこのことばを心とたましいに刻みつけ、それをしるしとして手に結びつけ、記章として額の上に置きなさい。」

このエペソ人に関する知らせは、パウロを大いに励ましました。イエスの羊に対する彼の愛は、成功か失敗かのどちらかの祈りをもたらすでしょう。しかし、パウロが強調したのは、あなたがたのために感謝を捧げることをやめず、あなたがたを私の祈りの中に覚えていることでした。

(エペソ 1. 16-17)にある17節の「私は求め続けます」という言葉は、使徒パウロによる祈りの喜びを暗示、あるいは示しています。キリストの奉仕に携わる者は皆、神が弟子たちの中で予想を超えて働かれるとき、励まされます。これは義務を超えた喜びです！主イエス御自身も、

(ヨハネ 5. 19)で次のように述べておられます：「19 そこで、イエスは彼らに答えて言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。子は、父がしておられることを見て行なう以外には、自分からは何事も行なうことができません。父がなさることは何でも、子も同様に行なうのです。」私たちが奉仕するすべての人々のうちに神が働いておられるという信仰を持つことは、良いことであり、必要なことです。しかし、イエスの父が誰かのうちにもっと多くのことを

しておられるということを理解することは、その人やミニストリーに集中するための真の励ましとなります。それは、イエスがなされたように、父がなさるのを見て、なさることであり、父がなさることは子もなさるからです。もちろん、主とは違って、私たちは父なる神がしておられることを見る完璧な「視力」を持っているわけではありません。私たちは視覚ではなく、信仰によって歩まなければなりません。これは特に、私たちのミニストリーにおいて、困難な人々や不可能な課題に直面したときに当てはまります。しかし、エペソの信徒たちの場合、パウロが栄光の父に祈り、知恵と啓示の御霊をあなたがたに与えてくださるようお願い続けるのは、論理的に当然のことです。そうすれば、神をもっとよく知ることができます。

真面目に聖書を学んでいる人なら知っているように、聖書は書かれていることが非常に一貫しており、聖霊の靈感を受けた人間の著者は、それぞれの文章の中でも一貫しています。「**神の恵みの栄光のために**」と題した先週のメッセージでは、使徒パウロがキリストにおけるクリスチャンの立場と、すでに与えられている多くの恩恵とまだ与えられていない恩恵をどのように強調したかを見ました。同じような姿勢で、パウロは栄光の御父がエペソのクリスチャンたちに知恵と啓示の御霊を与えてくださるようにと祈っています。これはもちろん、キリストの霊である聖霊のことです。

(1 コリント 1. 27-30) に書かれているように、神が私たちの救いのために働かれるのは御霊によるのです：「**27** しかし神は、知恵ある者はずかしめるために、この世の愚かな者を選び、強い者はずかしめるために、この世の弱者を選ばれたのです。**28** また、この世の取るに足りない者や見下されている者を、神は選ばれました。すなわち、有るものをない者のようにするため、無に等しいものを選ばれたのです。**29** これは、神の御前でだれをも誇らせないためです。**30** しかしあなたがたは、神によってキリスト・イエスのうちにあるのです。キリストは、私たちにとって、**神の知恵となり、また、義と聖めと、贖いと** になりました。」

今、御父の右の御座に座っておられるイエス・キリストが、どのようにして**私たちのために神からの知恵、すなわち、私たちの義、聖、贖い** となられたのか、私の神学的な説明に辛抱強くお付き合いください。聖霊は、知恵と啓示の霊であり、あなたがたは、(エペソ 1・17) において、この方をよく知ることができます。

このことを (1 コリント 15. 45-46) でも見ることが出来ます：「**45** 聖書に「最初の人アダムは生きた者となった。」と書いてありますが、最後のアダムは、生かす御霊となりました。

46 最初にあったのは血肉のものであり、御霊のものではありません。御霊のものはあとに来るのです。」

パウロは後に (1 コリント 15 章) で、イエスの復活した体は霊的な体であることを強調しています。アダムの体が肉の体であったのに対し、イエスはその霊的な体において、姿を消し、壁を通り抜けて再び現れることができました。使徒たちはこの奇跡に衝撃を受け、また主の霊的な体

が扱えることにも衝撃を受けました。（ルカの福音書 24. 30-32）と（36-40）に戻りましょう。この晩餐会は、二人の弟子とともにエマオへの道でイエスに出会った無名のイエスとのものです：「30 彼らとともに食卓に着かれると、イエスはパンを取って祝福し、裂いて彼らに渡された。31 それで、彼らの目が開かれ、イエスだとわかった。するとイエスは、彼らには見えなくなった。32 そこでふたりは話し合った。「道々お話しになっている間も、聖書を説明して下さった間も、私たちの心はうちに燃えていたではないか。…36 これらのことを話している間に、イエスご自身が彼らの真中に立たれた。37 彼らは驚き恐れて、霊を見ているのだと思った。38 すると、イエスは言われた。「なぜ取り乱しているのですか。どうして心に疑いを起こすのですか。39 わたしの手やわたしの足を見なさい。まさしくわたしです。わたしにさわって、よく見なさい。霊ならこんな肉や骨はありません。わたしは持っています。（40 節欠如）」

しかしブルース牧師、なぜパウロはイエスが生命を与える霊になったと言ったのですか？ 私たちは、イエスが復活した霊的な肉体を持って天におられることを知っています。ブルース牧師、イエスが天国と私の心の中という2つの場所に同時にいられるのはどうしてですか？ 生命を与える霊であるイエスは、三位一体の第三の位格である聖霊によって、御座から離れることなく、同時に二つの場所にいることができるのです。三位一体の神の三位一体は、彼らが創造した宇宙のどこにおいても決して離れることがないのであります。（ヨハネ 15. 26/MOUNCE）でイエスがこう言ったのを思い出してください：「しかし、わたしが父からあなたがたに遣わすパラクリート、すなわち、父から出る真理の霊が来ると、彼はわたしについて証しするのである。」原語のギリシャ語には、クリスチャンにおける聖霊の働きを表す言葉がある：パラクリート - π α ρ ά κ λ η τ ο ς (paraklētos) 他の人を助けるために召された者、あるいは遣わされた者、(1ヨハネ 2・1)：「1 私の子どもたち。私がこれらのことを書き送るのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためです。もしだれかが罪を犯したなら、私たちには、御父の御前で弁護して下さる方があります。それは、義なるイエス・キリストです。」：さまざまな有益な奉仕をするために現存する者、すなわち、キリストご自身の旅立ちを補うために、その影響力と働きを持つパラクリート {慰め主/KJ21} である。（ヨハネ 16・7）「7 しかし、わたしは真実を言います。わたしが去って行くことは、あなたがたにとって益なのです。それは、もしわたしが去って行かなければ、助け主 {Paraclete, Comforter} があなたがたのところに来ないからです。しかし、もし行けば、わたしは助け主をあなたがたのところ遣わします。」

これらの聖書の箇所はすべて、私たちがイエスを信じたとき、次のような霊的真理を指し示しています。それゆえ、クリスチャンの肉体の内側に住む御霊は、（ヨハネ 15：26）によれば、次のようです：クリスチャン一人一人に、体の内側から {イエス} を証しするのです。聖霊が私たちの心の奥底で動いているのを感じるとき、私たちは自由に “私の魂の中にイエスがおられる” と言うことができます。

教訓 その1

神は、罪人が信じた瞬間に聖霊を送り込まれました。 こうして、神の敵である罪人が聖なる聖人となったのです。

ブルース牧師、なぜこのような長い神学を？ すべてを理解できなくても...それは構わないのです。 しかし、聖書を信じれば、遅かれ早かれ、真面目に聖書を学ぶ人は、天国のイエスについて、そして心の中のイエスについて、同時に問うようになると私は期待しています。 この真理を受け入れずに、さらに混乱させるのは、（エペソ 2.6）の霊的知識や神学を理解することになることです：「6 キリスト・イエスにおいて、ともによみがえらせ、ともに天の所にすわらせてくださいました。」 この節については、このメッセージの後半で、さらに詳しく説明していくことにしましょう。

朗読（エペソ 1.18-19）：「18 また、あなたがたの心の目がはっきり見えるようになって、神の召しによって与えられる望みがどのようなものか、聖徒の受け継ぐものがどのように栄光に富んだものか、19 また、神の全能の力の働きによって私たち信じる者に働く神のすぐれた力がどのように偉大なものであるかを、あなたがたが知ることができますように。」

上で見たように、またパウロの書簡の多くに見られるように、成熟したクリスチャンも未熟なクリスチャンも、栄光に至るまでイエスに従うためには、聖霊による内なる助けが必要なのです。パウロは、主があなたがたを召された希望を知るために、頭だけでなく心も啓発されるようにと祈っています。 イエスは（ヨハネ 8・12）で言われました：「12 イエスはまた彼らに語って言われた。「わたしは、世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです。」 パウロは、エペソの信徒たちの内側にイエスの霊である聖霊によって神を求め、イエスの光を彼らの内側に輝かせ、「神があなたがたを召された希望を知りなさい」と引用しています。聖書の希望とは、私たちが信仰によって知るようになった私たちの未来についての確信に満ちた知識であることを忘れてはいけません。 イエスは、イエス信者が決して暗闇の中を歩むことはなく、いのちの光を持つようになることと約束されました。これはパウロがエペソの信徒に祈ったことです。イエスが彼らと私たちに召されたのは、その聖なる民における栄光の嗣業の富です。クリスチャンは、イエスと、イエスの十字架上の犠牲の死を受け入れ、自分の罪を負い、罪を取り除くことによって、聖徒、聖なる人とされます。イエスの嗣業とは、聖なる民のことであり、あなたも私も含まれる。私たちは、主にふさわしい相続財産である、完全に栄光に満ちた者となる道を歩んでいるのです」。パウロはエペソの信徒たちに、私が皆さんに望んでいるのと同じように、神はイエスに従い続けるすべてのイエス信者にそのようなことが起こるようにしてくださることを、確信をもって知ってほしいと願っています。パウロの祈りには、心が啓発され、19節のことをもっと知るようになることが含まれています：「その比類なき偉大な力は、信じる私たちのためにある。」

クリスチャンが成熟するにつれ、この内な

る知識は、聖霊が私たちの内にキリストを形成する内的な仕事です。これは頭で理解するよりも具体的なものです。聖書から得た知識も使うだろうが、クリスチャンは神の力が自分たちをどのように変えているのかを、ますます実感するようになります。パウロがコリント教会に宛てた手紙（2 コリント 3. 18/AMP）にある通りです：「18 私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられて行きます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。」

1 世紀の鏡について。一般的に、私たちが日常的に使っている 21 世紀の鏡のように、ほぼ 100% 像を映し出す鏡を持っていたのは、最も裕福な人々、王や王妃だけでした。1 世紀の鏡は通常、半透明でした。つまり、自分の顔に対して正しい角度で鏡を持っていなければ、透けて見えてしまうのです。これが、主の栄光を鏡のように見るという意味です。聖霊は私たちに、イエスにおける明確な真理を与えてくださいます。これが、イエスを信じる私たちにおける聖霊の働きです。私たちの個人的な神であり救い主である聖霊は、私たちが神の子となるために絶え間ない変容をもたらすことによって、私たちの日々の生活体験に働きかけてくださいます。主は常に御言葉と聖霊を用いられますが、聖霊は私たちを悟らせなければならず、それは御言葉を私たちの存在の核心に深く住まわせることを意味します。そして、（2 コリント 3. 18/AMP）のように言うことができます：「18 私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられて行きます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。」これは、御父が一番よく知っておられるように、奇跡も含まれるかもしれないが、私たちの人格と人としてのあり方において、御子のようになるために私たちが変容し続けることこそ、私たちの周りで、また私たちを通して神が超自然的なわざをなさろうと、最大の奇跡なのです。今週、私はあるクリスチャンがこのような輝かしい証しをするのを聞きました。これはまさに、（エペソ 1. 19）のように信じる私たちに対する神の比類なき偉大な力の証しなのです。

次の朗読（エペソ 1. 19b-20）：「19 また、神の全能の力の働きによって私たち信じる者に働く神のすぐれた力がどのように偉大なものであるかを、あなたがたが知ることができますように。

20 神は、その全能の力をキリストのうちに働かせて、キリストを死者の中からよみがえらせ、天上においてご自分の右の座に着かせて、」

罪人の心を暗闇からイエスの驚くべき光へと変えること、あるいは聖人の心をイエスのようにすることがどれほど難しいかを理解するとき、神がキリストを死者の中からよみがえらせ、天上界でご自分の右の座に座らせた（20 節）ときに発揮された神の強大な力に勝るものはないでしょう！このように、人間の心を変えるには、神が御子を墓からよみがえらせたのと同じくらい、神の力が必要なのだ。その力は、イエス・キリストの教会を建設するための超自然的な奇跡にも利

用できます。この釈義は、次の節（エペソ 1. 20b-21）とうまく合致する：「20…天上においてご自分の右の座に着かせて、

21 すべての支配、権威、権力、主権の上に、また、今の世ばかりでなく、次に来る世においてもとなえられる、すべての名の上に高く置かれました。」

パウロが2章で再び繰り返すように、良き教師であるイエスの父なる神の右の座は、神のひとり子、主としてのイエスの神性を確認し、宣言するものです。このことは、イエスの敵である人間や悪魔を悩ませます。私たちは、イエスが十字架上で栄光をお受けになった後、間もなく起こるこの事実を告げたとき、大祭司の怒りが沸騰したのを見ました。（マタイ 26. 63-65）にあるとおりです：「63 しかし、イエスは黙っておられた。それで、大祭司はイエスに言った。「私は、生ける神によって、あなたに命じます。あなたは神の子キリストなのか、どうか。その答えを言いなさい。」64 イエスは彼に言われた。「あなたの言うとおりです。なお、あなたがたに言うておきますが、今からのち、人の子が、力ある方の右の座に着き、天の雲に乗って来るのを、あなたがたは見るようになります。」65 すると、大祭司は、自分の衣を引き裂いて言った。「神への冒涜だ。これでもまだ、証人が必要でしょうか。あなたがたは、今、神をけがすことばを聞いたのです。」

私たちイエス信者は、主イエスの現在の立場をあまりにも簡単に忘れてしまいます。私たちはまた、イエスが天の雲に乗って地上に戻って来られることを謎にしておられなかったことも忘れていきます。イエスは敵に、雲に乗って戻ってくるのを見るだろうと言われました。イエスに従う者たちはそうではないのです！この夏の終わりには、イエスの再臨について説教する予定なので、詳しくはそちらで。しかし、次の節（エペソ 1・21）で：「21 {イエスは今}すべての支配、権威、権力、主権の上に、また、今の世ばかりでなく、次に来る世においてもとなえられる、すべての名の上に高く置かれました。」イエスは栄光を受け、天に戻られて以来、常に主であり、来るべき時代においてもそうです。その時代は時を超え、永遠に続きます！親愛なる OIC の聖徒たちよ、イエスは私たちのためにおられるのであって、私たちに敵対しておられるのではないのです。「22 また、神は、いっさいのものをキリストの足の下に従わせ、いっさいのものの上に立つかしらであるキリストを、教会にお与えになりました。23 教会はキリストのからだであり、いっさいのものをいっさいのものによって満たす方の満ちておられるところです。」

“Under His Feet”... とは、私たちキリストのためのクリスチャン・ソルジャーを励ます歌としてよく歌われるように、（マタイ 16. 18/KJ21）の聖書箇所です：「18 ではわたしもあなたに言います。あなたはペテロです。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます。ハデスの門もそれには打ち勝てません。」歌い続けよう...生き続けましょう。私たちは、しばしば不完全ではあるが、忠実で誠実な努力でイエスに仕え、キリストの御霊とともに、私の {イエス} 教会を築くために働きましょう！神がすべてのものをご自分の足の下に置かれたことを思い起こしましょう。

先週、私は地下鉄の車内で、悪魔に取り憑かれた若者と対峙しました。彼の両親は、縛り紐で彼をコントロールしようとしていました。これは明らかに彼の常套手段でした。私が近づくにつれ、彼のコントロールは難しくなりました。私は以前、ボストンの電車で悪魔に取り憑かれた男に遭遇したことがありました。その教訓を思い出しながら、私は手に負えない暴力的な男をまっすぐに見つめました。そしてサタンに命じ、イエスが悪魔に対して語った聖書の一節を使いました。少し変化があっただけで、暴力的ではなくなりました。もちろん、サタンは私の失敗を責め始めました。しかし、神が私を間違った電車に乗せると（私は水曜日の聖書の勉強の後、半分眠っているときでさえ、いつもは正しく乗るのだが）、これは神の計画であって、私の計画ではないとわかりました。そして終点に着きました！ 私は祈りの中で御霊に集中していたので、停車駅には気づかなかったのです。私たちは全員降りなければならなりませんでした。その男性の両親は感謝した様子だったが、息子を解放しようとする私の意図については知る由もなかったのです。私はその父親にはっきりとこう言いました。彼は私の言葉を聞き、息子への私の注意を認めました。その出会いから神が何を始めたかは、永遠だけが語ることでしょう。ところで、OICには、少年から悪霊を追い出すことに成功した会員がいます。私がここで言いたいのは、イエスは人々を地獄の門に押し込もうとするすべての力に対して優位な立場にあるということです。私は悪魔に言葉で立ち向かう前に祈りました。偶然の一致（間違った電車）と、私が彼に近づいたときの明らかな行動の変化は、その人のためにもイエスのためにも、私が悪魔を追い出そうとしなければならないことを意味していました。

教訓 その2

サタンは、臆病なクリスチャンが彼を恐れて何も行動を起こさないのを好む！.....あるいは、彼の子供たち、つまり罪人たちによる裁きを恐れています。彼に嫌われて本当によかった。

イエスの宇宙に対する権威の立場には、イエスの花嫁である教会も含まれます。（エペソ 1.22b-23）の教会、すなわち、イエスのからだであり、あらゆる点ですべてを満たしておられるイエスの満ち満ちたものです。OIC、私たち、そして地球上のすべてのクリスチャンは、イエスのからだなのです。（エペソ 1.21）にあるように、{イエスは今や}すべての支配と権威、権力と支配、そして呼び出されるあらゆる名の上におられます。私たち牧師は、使徒パウロのイエスの羊への愛と、（ヨハネ 13.34）のイエスの命令に従うようにというパウロのもどかしさを感じています。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。OICの中でも、OICの外でも、私は“OICは愛の多い教会だ！”と言っています。それは本心です！しかし、私たちは皆、キリストのようになるために、栄光への歩みの過程にいます。私たちの誰も、特にあなたの牧師は、まだそこに到達していません！教会の頭は羊の群れの羊飼い長であるイエスであることを思い出すことは、私たち全員が一つの体、すなわちつながった地域教会であることを学ぶ助けとなります。私の人生においても、他のクリスチャンたちにおいても、陶器師であるイエ

スは、いつも地域教会において、ご自分の粘土の壺を最も力強く、長く続くように形づくられることを私は見てきました。私たちは皆、成熟のレベルは異なるが、(2 コリント 4.7) にあるように、まだ皆、「陶工のろくろ」の上にあります：「7 私たちは、この宝を、土の器の中に入れておいています。それは、この測り知れない力が神のものであって、私たちから出たものでないことが明らかにされるためです。」パウロはこの聖句(エペソ 1.23)の最後を次のように結んでいます。今日、イエスは御霊に満たされた教会を望んでおられます。このように、イエスはまだ天におられながら、ご自分の教会を満たしておられるのです。私たちは、このエペソへの手紙の後半で、終末の時にイエスが文字通りすべてのものを満たすことを見るでしょう。

さて、エペソ人への手紙の第2章に入ります。この章には、私たち聖書に飢えている学生にとって、霊的な肉と芋、あるいは米と鮭がたくさんあります。

NIVUK 聖書は、エペソ人への手紙第2章のタイトルを“キリストにあって生かされた”としています。これは、パウロが(エペソ 2.1-2)で始めているように、非常に適切です：「1 あなたがたは自分の罪過と罪との中に死んでいた者であって、2 そのころは、それらの罪の中にあってこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者として今も不従順の子らの中に働いている霊に従って、歩んでいました。」

ここでパウロは、私がアメリカや日本で見たテレビコマーシャルのように、言葉によるビフォー&アフターを行っています。これは、売り込みのポイント、あるいは聖書の真理のポイントを示すのに非常に効果的です。(エペソ 2.1)にあるように、パウロにとって重要なのは、エペソの信徒たち、そしてすべてのクリスチャンが、イエスなしにはどれほどひどい状況であったかを思い起こすことです：あなたがたは、罪過と罪の中に死んでいたのです。罪人は神の敵です。

(ヨハネ 14.6)にあるように、彼らはいのちであるイエスを欠いています：「6 イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。」ボストンで夕食を共にした日本人女性にドロシーが(日本語で)“イエス・キリストは人生です”と言ったときの驚きを見ました。この女性は英語が上手だったので、30分ほど会話が弾みました。個人伝道において、この真実の裏返しである“You are spiritually DEAD!”と言うのは難しいかもしれません。しかし、イエスという“いのち”を持たない地球上のすべての人々がそうなのです。

霊的に死んでいることは、日常生活に影響を及ぼすします。(1節)のように、あなたの罪過と罪の中に死んでいるというのは、霊的に死んでいることの結果であって、霊的に死んでいることの原因ではないことに注意してください！つまり、罪人の罪過や罪は、「霊的に死んだ」子tにより、生じた結果なのです！聖書は、ダビデ王が(詩篇 51.5/NLT)で賢明に語った言葉から、このことを教えている：「5 ああ、私は咎ある者として生まれ、罪ある者として母は私をみごもりました。」

霊的に死んでいることの影響については、(エペソ 2.2) にさらに詳しくあります：「2 そのころは、それらの罪の中にあつてこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者として今も不従順の子らの中に働いている霊に従つて、歩んでいました。」彼らが知つてか知らずか、エペソ人たちは罪人と同じように、サタンとの奴隷の絆で結ばれた仲でした。そうです。罪人は世とサタン、すなわち空の王国の支配者であり、不従順な者たちに今も働いている霊に従っているのです。

世界とは、国家、政府、企業、そして人間によるあらゆる制度のことです。{クリスチャンが経営する企業や機関、そしてもちろん教会を除く)。世界はサタンの強い影響下にありますが、神の主権的な限界もあります。サタンは墮落した天使であり、空の王国の支配者です。彼はほとんど目に見えないが、霊の世界が物理的世界を動かしています。あまりにも多くのクリスチャンが、お金や物質といった物理的世界が霊的な世界を動かしていると思っています。そうではないのです！神は、罪人の救済と御子イエスの再臨という、神の永遠の賢明なご計画に適うときのみ、サタンによる世界の支配を覆し続けておられるのです。イエスは天地の主です！

(エペソ 2.2b) にあるように、神に従わない罪人は、その内と周囲に悪魔が働いています：「…今も不従順の子らの中に働いている霊に従つて、歩んでいました。」パウロは、自分が使徒として生まれたのではなく、ダビデ王が言ったように罪人でもあつたことを明らかにしています。そのため、(エペソ 2.3) では、(エペソ 2.2) のような“あなた方”ではなく、“私たち”という代名詞を使っています。ですから、(エペソ 2.3) にあるように、私たちも皆、肉の欲求を満たし、肉の欲望と思ひに従つて、一時は彼らの中に住んでいたのです。他の者たちと同じように、私たちも生まれながらにして神の怒りに値する者だったのです」。パウロは次に、“死んだ罪人”がどのようにして“キリストにあつて生かされたのか”を明らかにするための舞台を整えています。

罪人はただ「自己」を満足させるために生き、肉の欲求を満たし、肉の欲望や思考に従います。彼らはこれらの欲望を抑えようとはしないし、実際、非常に長続きしません。サタンが奨励する形だけの神々しさは、一部の罪人には一見して見えるかもしれないが、罪は彼らの魂の奥底で起り続けています。それゆえ、聖なる神を信じる者は、パウロが(エペソ 2.3b) で言うようにです。

パウロは今、栄光の“生まれ変わった後”を説くために、“クリスチャンとして生まれ変わる前”を終わらせませす。「4 しかし、あわれみ豊かな神は、私たちが愛してくださったその大きな愛のゆえに、5 罪過の中に死んでいたこの私たちがキリストとともに生かし、——あなたがたが救われたのは、ただ恵みによるのです。——」

教訓 その3

憐れみは人類に対する神の心からの愛であり、恵みは人類に対する神の愛の行動である。恵みとは「無償の好意」であることを思い出せば、神は常に、神の目に「無償の好意」を見出された人々に向かって行動されることが、よりはっきりと浮かび上がってきます。イエスの誕生のとき、天使たちは天の神から地球へのメッセージをこう宣言しました（ルカ 2.14）。

私たちはローマ書で、ユダヤ人も異邦人もクリスチャンは神に選ばれた者であり、神の寵愛を受ける者であることを学びました。神は、私たちが霊的な死から霊的ないのちであるイエスのもとに引き上げられるよう、御心にある憐れみに基づいて行動されました。イエスは、実は霊的な世界の外でもいのちの創造者なのです。ですから、私たちクリスチャンは、たとえ私たちが罪の中に死んでいたとしても、神の救いの力を止めることができなかったことを経験したのです。この力は、サタンによって盲目になっていた私たちの目を開き、私たちの赦しを買うためのイエスの十字架上の死という福音を見、信じるようにしました。

御子イエスを信じる私たちに対する神の愛や力を過大評価することは決してできない。このことは、聖霊がパウロに（エペソ 2.6-7）で書くように促したことによって、劇的に示されています：
「6 キリスト・イエスにおいて、ともによみがえらせ、ともに天の所にすわらせてくださいました。7 それは、あとに来る世々において、このすぐれて豊かな御恵みを、キリスト・イエスにおいて私たちに賜わる慈愛によって明らかにお示しになるためでした。」

パウロが言っているのは、天に携挙された私たちの復活した肉体のことではないのです。霊界では、神の目から見て、私たちクリスチャンは天でイエスとともに座っているのです。

エペソ人への手紙 1 章で、パウロが“キリストのうちに”、“キリストのうちに”と繰り返したのを思い出してほしいです。先週のメッセージ「神の恵みの栄光のために」を引用しましょう：
「今、パウロは、キリストのうちにある、信じる者の立場を強調しています。」（エペソ 1.10）にこうあります：「彼の内に、10 時がついに満ちて、この時のためのみこころが実行に移され、天にあるものも地にあるものも、いっさいのものが、キリストにあって一つに集められることなのです。このキリストにあって」そして（エペソ 1.11）：「彼の内に 11 私たちは彼にあって御国を受け継ぐ者ともなったのです。私たちは、みこころによりご計画のままをみな実現される方の目的に従って、このようにあらかじめ定められていたのです。」そして（エペソ 1.13-14）：「彼の内に 13 またあなたがたも、キリストにあって、真理のことば、すなわちあなたがたの救いの福音を聞き、またそれを信じたことによって、約束の聖霊をもって証印を押されました。14 聖霊は私たちが御国を受け継ぐことの保証であります。これは神の民の贖いのためであり、神の栄光がほめたたえられるためです。」

（メッセージ引用終わり）

また、(1 コリント 1.30) : 「しかしあなたがたは、神によってキリスト・イエスのうちにあるのです。キリストは、私たちにとって、神の知恵となり、また、義と聖めと、贖いとなりました。」

ブルース牧師、これは私たちの日常生活においてどのような意味を持つのでしょうか？あまりにも単純に聞こえるかもしれませんが、イエスは天に上げられ、父なる神の右の座に着かれました。私たちは霊的に“キリストの内にいる”のです。ですから、私たちがすでにキリストの中にいるように、神は本当の意味で私たちをすでに天国で見ておられるのです。さて、私たちが受けた聖霊は不可知論的な霊ではないのです。私たちの肉体と内なる存在は、イエスがご自分の花嫁である教会のために戻って来られるときに、天国に移されます。しかし、この霊的真理を考えるだけで、信者には力がある…私たちも全能の神の右の手にあるように、キリストには力と権威があります…神の無償の恩恵によって。これはまさに、イエスが私たちに知恵を与えてくださっているのです。

私がキリスト者になった最初の年に、ほとんどがキリストにある新しい兄弟姉妹たちとともに教会の修養会に参加したときの例を挙げましょう。それはアメリカのボストンで行われたジーザス・ムーブメントでした。私は(エペソ 2・6)に感銘を受け、ある種の自信を感じていました。そう、神の御言葉を正しく分ける私の才能は、すでに指導者たちから称賛されていたのだが、聖書を読み始めたばかりの私には意味がわからなかったのです。私はキリストにある赤ん坊だったのですが、この世の道と空の王国の支配者であるサタンの道に従う者であることから意識的に解放されました。この素晴らしいリトリートで、私は最近生まれ変わったクリスチャンの若い女性に出会いました。彼女は誠実そうに見えたのですが、ローマ・カトリック教会でマリアを礼拝していることを重々しく話していました。私はこれが偶像礼拝であることを知っていました。一緒に暮らしていた何人かのメンターや兄弟たちは、彼女をかなり厳しく正した私を叱責しました。修養会の最終日、彼女は私のところに来て、イエスの御霊が彼女の心に語りかけ、私の叱責が真実であることを確信させたとして、私に感謝を惜しみませんでした。彼女はマリア礼拝を悔い改め、明らかに大きな喜びに満たされていました。神はご自分の家族において、人をかたより見る方ではありません(ベイビー・クリスチャンでも用いられます)。(エペソ 2.6)が私たちすべてに語っているように、神が私たちをキリストとともによみがえらせ、キリストとともに天の御座に着かせてくださったことを、あなた自身が考えるとき、神があなたがたに与えておられる賜物や召命が何であれ、より明確で具体的なものとなるでしょう。

祈りましょう。

参考文献

AMP - *Amplified Bible*, Copyright © 2015 by The Lockman Foundation, La Habra, CA 90631.

All rights reserved.

KJ21- 21st Century King James Version (KJ21) Copyright © 1994 by Deuel Enterprises, Inc.

NIVUK - Holy Bible, New International Version® Anglicized, NIV® Copyright © 1979, 1984,

2011 by Biblica, Inc., Used by permission. All rights reserved worldwide.